

新認知症薬の副作用

どんな薬にも、副作用はある。薬効が確かでも、それを上回る副作用があれば使えない。

年内にも使用可能になる新認知症薬シカネマブに、期待は大きい。治験では、悪化速度を27%抑制したという。それは平均的な数字だから、患者さんによっては、もっと良い結果が得られるだろう。ワッシーも、患者さんに新薬を使えるようになる日を、ワクワクしながら待っている。

と、同時に、日増しに不安も高まってくる。シカネマブの副作用だ。約1800人の患者さんを対象にした治験では、抗体を点滴することで起きる発熱やアレルギー反応などが26・4%あったという。軽度から中等度の症状で、点滴は続けられたという。が、抗体薬には、稀だが、死亡例の報告もある。はたして、シカネマブは大丈夫だろうか？

さらに気がかりなのは、治療後にみられた脳の微小出血や浮腫（むくみ）である。シカネマブの点滴後に、定期的に脳のMRI（磁気共鳴画像）検査を行ったという。すると、シカネマブを投与したグループで

は、小さな脳出血が17・3%（偽薬グループは9%）に、脳のむくみが12・6%（同1・7%）にみられたというのである。多くの例では、症状が出なかったというのだが、それは1800人に限った結果である。ことに脳出血などは、部位によっては重い後遺症を残すことも考えられる。

アミロイドβは、脳の血管壁にも蓄積している。それがシカネマブによって除去されるから、出血やむくみが起きるといえる。避けられない副作用ということになる。となれば、もともと脳の出血を起こしやすいや、血液サラサラの薬を飲んでいる人に、シカネマブは使えないということになる。さても、医者には、色んな準備や覚悟さえも必要な新薬ということになる。

（石黒修三＝いしほろくりニック・脳神経

外科医・19北國新聞掲載）